

|        |  |
|--------|--|
| 事案名    | 網走沖の事案（北海道1 - 4）   |
| 分類     | 廃棄・遺棄<br>発見・被災・掃海等処理   |
| 資料     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・証言〔1〕</li> <li>・『美幌新聞』平成8年10月28日〔2〕</li> <li>・『読売新聞』平成8年10月26日〔3〕</li> <li>・証言〔4〕</li> </ul>   |
| 資料内容概要 | <p>終戦後、各航空廠にあったイペリット爆弾は米軍の監督指揮により海上投棄されたといわれているが、第41海軍航空廠美幌分廠にて保有していたイペリット爆弾と通常弾は、旧軍によって、網走沖及び屈斜路湖に遺棄されたとの証言がある。</p> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元第41海軍航空廠美幌分工場補給課の軍属の証言として、毒ガス弾は昭和19年に100発程度運ばれてきた記憶がある。上司が毒ガス弾だと教えてくれた。終戦直前に出張があり、「8月22日に美幌に戻ってきたときにはすでに普通弾も毒ガス弾も処分されなくなっていた。当時作業に携わっていた部下の話では、爆弾は全部網走の海に捨てたと言っていたのを聞いているので多分ガス弾も混じっていたものと自分なりに判断した」としているが〔1〕、同証言者は、新聞記事によれば、第41海軍航空廠美幌分工場長から、保管していた爆弾の一部を米軍に引き渡す分として残し、大半は網走港沖に捨てたことを聞いたと証言している〔2〕。</li> <li>・元美幌警防団副部長の証言として、「美幌警察署長の命令で、美幌航空隊の地下トンネルに保管していた爆弾類や小銃類の処理班に組み込まれ、弾薬類などの運搬と海中投棄の作業にあたった。網走港から漁船で、『二つ岩』を左にした状態で、約30～40分出た辺りに捨てた。同様の作業にあたった同僚から、その後、『自分は屈斜路湖に捨ててに行った』との話を聞いているが、捨てた爆弾類のなかに毒ガス弾があったかどうかは確認していない」と記載されている〔3〕。</li> <li>・元第41海軍航空廠警防班の軍属の証言によれば、昭和18年から20年までの間、ガス弾は一度に100発ずつ3回列車で輸送されてきた覚えがある。敷地内には地下壕が多数あり、ガス弾専用の地下壕に入れてあった。終戦時に、上司から、通常弾は網走沖に投棄し、「ガス弾は屈斜路湖へ輸送し湖に投棄すること」との指示を受け、2日間にわたり、一日約30発計60発を屈斜路湖に投棄させたが、証言者自身はトラックに積み込む作業を行っただけで廃棄場所へは行っていない。「ガス弾についてはすべて屈斜路湖に投棄しており、網走に</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>は投棄していない。投棄場所は、湖にある半島付近に多く投棄したと聞いている」としている〔４〕。</p> |
|--|---|